

# 「成果発表・講評会」

1



スタジオLで作業中。

2



最終日が始まりました。

3



拍手でみんなを称えます。

4



家島での思い出を語りました。

5



家島を思い描き、話を聞きました。

6



みんなで土台をつくって……。

## 最終日を迎えて

10月8日から始まった「探られる島プロジェクト」も最終日を迎えました。

前回のプログラム終了後、メーリングリストやスタジオLの事務所などで、時間の都合のついた参加者も参加して「プロジェクトブック」とりまとめ作業を行いました。そしてプロジェクトブックを完成させ披露するに至りました。(1)(2)

## いえしまの思い出+アイスブレイク

スタンディングオベーションというアイスブレイクを行い、今日発表する人すべてに対してスタンディングオベーションをすることを決めプログラムをスタートしました。(3)

本日来ていただいた講師の岡田先生や、当プログラムに興味を持って本日参加していただいた方など家島を訪れたことのない方もいましたので家島での思い出を参加者に写真を見ながら語りました。参加者が感情をこめて家島の魅力を話す姿に、家島で得られたものの大きさを感じることが出来ました。(4)(5)

プロジェクトブックの配布の前に、この7日間のプロジェクトで行う最後のアイスブレイクを行いました。このプロジェクトでは数々のアイスブレイクを行いました。アイスブレイクを行う度に参加者の結束が深まり、スムーズな討議が出来ました。最後のアイスブレイクはプロジェクト参加者と講師の方、初めてこの会を見学にくられた方と一緒にアイスブレイクを行いました。(6)(7)

## プロジェクトブックの発表

今年度のプログラムは「産業の風景」をテーマにいえしまを探りました。いえしま内の産業の風景を写真に収めたり、実際にいえしま内で働いている人たちに直接話を聞いたことをまとめ、産業の風景から感じ、探した家島の魅力を冊子にまとめました。

観光のために新しい何かを作るのではなく、産業の風景に潜む魅力ある風景や、その中で暮らす島民とのコミュニケーションなど「ツーリストティック(観光的)」な面があるとプロジェクトブックとして提案しました。

参加者の感想として「家島の魅力を表現できている。」「産業をうまくまとめている。」「前年度のプロジェクトブックとつながりを感じられて良い。」があげられました。(8)(9)

## プロジェクトブックの講評

プロジェクトブックを読んでもらい講師、家島研修会の方に講評をしていただきました。

【家島研修会 岩本氏「昨年度よりいいものが出来たと思います。ただ男鹿島など表現の仕方を少し考えていただきたい。」】

【講師 山崎氏「生活、産業とテーマにしてきた、来年3年目に良い落ちを見つけたい。限られた中で起承転結が出来ており素晴らしい。」】

【講師 岡田氏「よく編集できている。刺激的なページがたくさんある面白い。テクノスケープは手段を選ばないのでもっと面白いことを探し実現してほしい。家島の石を追いかけて海外進出を!」】

【講師 若狭氏「各写真に素直なコメントがあつてすごく良い。職人が身近にいる町、面白い生活、観日常では味わえない面白さが伝わった。」】(10)(11)

## 「探られる島」プロジェクト修了式

プロジェクトブックの感想と講評の中で一部修正点があったので後日プロジェクトブック完成披露会を開きそのときに改めてプロジェクトブックを渡すということになり、約3ヶ月に渡った「探られる島」プロジェクトは終了しました。最後に趣向を凝らした修了書をみんなに手渡し解散しました。(12)

7



机からダイブする人を協力して受け止めました。

8



プロジェクトブックを手にとりて熟読しました。

9



プロジェクトブックの感想を言い合いました。

10



講評していただきました。

11



講評していただきました。

12



修了書に大感動!